

交換留学帰国報告書

記入月日: 令和1年5月26日

氏名: 内藤 来

留学時所属&学年: 国際地域学部4年

留学先大学	ラトガース大学
留学先国	アメリカ合衆国
留学期間	約8か月半
留学開始-終了日	2018年8月26日 - 2019年5月15日

報告書上での氏名公開について（どちらかに○をつけてください。）

帰国報告書 公開を希望します 希望しません

月例報告書 公開を希望します 希望しません

【留学前: 留学に至った経緯や留学準備について】

1. 交換留学を希望した動機について教えてください。

英語能力の向上と、専門分野への理解を深めたかったことが留学を希望した主な目的。また日本の外でマイノリティーとして生きることを経験するため。

2. 留学準備を始めた時期はいつ頃ですか。何から準備を始めたかについても教えてください。

約3か月前から。渡航先大学が用意してくれたチェックリストに沿って準備していった。

3. 留学先を決めた経緯について教えてください。また、派遣先の大学や現地情報についてどのように情報収集を行いましたか。

ラトガースは福井大学が持つ提携校の中でも学問的にレベルの高い大学であったこと。また福井市と深いつながりを持つ大学であったことから福井についての理解が深まると考えたこと。

4. 留学に向けての語学試験対策、各種語学能力試験などの受験回数について教えてください。

TOEFL ITP を 10 回程度は受けた。550 を取ってから受験した。なるべく早く 550 を取ろうという気持ちで取り組んだ。

5. 留学準備を進める際に役に立ったことについて教えてください。

(例: 助言教員、国際課、留学経験者からのアドバイス、大学情報ウェブ、留学オアシスなど)

国際課の助言、インターネットでの情報等。

6. 渡航前の履修登録や単位認定に関して、苦労したことやアドバイスはありますか。

履修登録はほとんど授業内容が同じのようなものでないと福井大学の単位として認定される確率は低いうえに、手続きも時間がかかる。留学前にできるだけ単位を取って留学中は単位交換しないで好きな授業を取るという形がベストのように思えた。

【留学中: 大学生活や日常生活について】

A. 大学生活

1. 大学の校風や雰囲気はどうでしたか。

州立大学ということもあって学生のレベルも様々。プリンストンに行けたがラトガースに来たという人もいれば、コミュニティーカレッジから編入してきたような人もいる。雰囲気ものびのびとしていて、名門大学ではあるもののアイビリーグなどで見られる競争意識のようなものを感じることはなかった。

2. 大学構内の設備(ネット環境、学習支援、スポーツ施設等)について教えてください。

寮とキャンパスには wi-fi がある。学生用の無料のジムがある。ライティングセンターなどもあるのでペーパーなどの添削も無料でしてもらえる。

3. 参加していたサークルや部活はありますか。部員の数や活動内容、イベントなどについて詳しく教えてください。

ありません。(サークル等に入ることは可能です)

B. 授業や勉強

1. 留学先で履修した科目

1	<ul style="list-style-type: none">●科目名(担当教員名): East Asia in World Affairs (Tom Reilly)●時間数/週(単位数): 80分×2 (3単位)●クラスの学生数: 約12名●授業内容・課題(予習・復習の方法等): 東アジア、特に北東アジア(日本、韓国、中国、台湾)の戦後の国際関係を学ぶ授業。授業は先生がスライドで課題のリーディングの内容を説明していく形で、先生が数回授業中に生徒に質問をして意見のある
---	--

	<p>生徒が手を挙げて発言する。リーディング課題は週に論文 5 から 6 本あたりの量(だいたい一本 30 ページ弱くらい)。ライティングの課題は中間と期末に 5 ページのエッセイと、5 ページの文献レビューが各エッセイの前にひとつずつある。最後に筆記のテストが期末にひとつある。300 番台の授業なのでリーディングの量もペーパーの数も多く、政治学や国際関係に興味がないとだいきつと思う。ただ政治学が初めての人でも興味があれば十分についていける内容だと思う。ちなみに先生は教授ではなく大学院生。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ●科目名(担当教員名): Introduction to International Relations (Amy J. Higer) ●時間数/週(単位数): 80 分×2 (3 単位) ●クラスの学生数: 約 40 名 ●授業内容・課題(予習・復習の方法等): 国際関係論の入門。リーディングの量は少なく一授業に対して 30 ページほど。授業の形式は一番と同じ。質問される数は少なめ。たまに 5 分程度グループディスカッションを周りの人とする。中間と期末に 2 つの筆記テストあり。難しくはないと思う。セメスターで一回グループプレゼンテーションあり。選んだ地域の時事問題を国際関係の視点から説明、考察する。5 分程度なのでそこまで大きいものではなく、成績への影響も大きくない。
3	<ul style="list-style-type: none"> ●科目名(担当教員名): Introduction to Agriculture and Food Systems (Xenia Morin) ●時間数/週(単位数): 80 分×1 (3 単位) ●クラスの学生数: 約 30 名 ●授業内容・課題(予習・復習の方法等): アメリカや世界において、食べ物がどのように人間、地球に関わっているのか学ぶ。リーディングの量は少ない。基本的な授業スタイルは上と同じだが質問の数も多めで、また食べ物を実際に食べる授業など座学にならないような授業をすることが多かった。定期的なオンラインの小テストと、中間にテストが一つある。期末あたりに 7 分ほどの個人プレゼンと 7 ページのリサーチペーパーがある。
4	<ul style="list-style-type: none"> ●科目名(担当教員名): Immigration and Public Policy (Sanjuhi Verma) ●時間数/週(単位数): 180 分(休憩あり)×1 (3 単位) ●クラスの学生数: 約 12 名 ●授業内容・課題(予習・復習の方法等): アメリカの移民政策の歴史と、移民問題を政治的、経済的、社会的といった様々な側面から学ぶ。授業形式は 1, 2 番と同じ。セメスターの途中からグループを組んでそのグループで課題をしたり、ディスカッションをしたりする。一応大学院生用の授業だが留学生も受講できる。中間と期末に 5 ページ程度のエッセイと、授業ごとに 1 ページほどのエッセイを提出する。ほとんど隔週開講のようなスケジュールだった。リーディングは量もそれなりに多いがそれよりも内容が難しい。

5	<p>●科目名(担当教員名): Samurai Tradition in Japanese Literature and Film (Haruko Wakabayashi)</p> <p>●時間数/週(単位数): 80分×2 (3単位)</p> <p>●クラスの学生数: 約20名</p> <p>●授業内容・課題(予習・復習の方法等): 平家の時代から明治までの武士社会やサムライの文化について学ぶ。先生の父と旦那さんは日本人であって、先生の母国語は一応英語だが日本語も日本人と全く変わらないレベル。週2回の授業のうち、一回は講義中心の授業で、もう一回はグループディスカッション中心の授業。生徒は最低一回はディスカッションリーダーをする必要がある。1週間に一回1ページほどのペーパーと、中間と期末に5ページのペーパーがある。リーディングの量は少なくないが多くもないくらい。映画を見る授業が多くある。</p>
6	<p>●科目名(担当教員名): Global East Asia (Paul Schalow)</p> <p>●時間数/週(単位数): 80分×2+80分(2週間に一回) (4単位)</p> <p>●クラスの学生数: 約180名 (2週間に一回の方は25名程度)</p> <p>●授業内容・課題(予習・復習の方法等): 東アジアの政治経済、文化、環境などのテーマをグローバル化の視点から見る。授業は人数も多いためほとんど質問はなく講義形式。週に2回の講義に加えて、2週間に一回ディスカッションの授業がある。そこでは生徒は25人ほどに細かく分けられ、また大学院生が授業を担当する。さらに授業の中で6つほどのグループに分けられ各グループはそのディスカッションの授業ごとに司会をしてディスカッションを進行する。リーディングは多くない。課題は2週間に1回1ページ程度のレスポンスペーパー。中間、期末に試験やペーパー無し。</p>
7	<p>●科目名(担当教員名): Violence and Asian American Literature and Film (Allan Issac)</p> <p>●時間数/週(単位数): 80分×2 (3単位)</p> <p>●クラスの学生数: 約30名</p> <p>●授業内容・課題(予習・復習の方法等): アメリカでのアジア系移民に関する文学を読む。授業の形式は1番と似ているが、文学ということからより生徒主体の授業のような感じがある。Semesterで8冊の小説を読む。中間にオンラインの筆記テストと、期末に7ページほどのペーパーがある。個人的にこの授業は取った授業の中で群を抜いて難しく、大変だった。文学専攻の人以外はあまりお勧めしない。文学を取るなら100番台からとったほうが良いと思う。</p>
8	<p>●科目名(担当教員名): Cultural Forces in International Politics (Anjali Nerlekar)</p> <p>●時間数/週(単位数): 80分×2 (3単位)</p> <p>●クラスの学生数: 約20名</p>

●授業内容・課題(予習・復習の方法等): 政治学を文化の面から、かつ西洋に対して批判的に見る授業。植民地時代の影響や、西洋の言葉、文化が植民地に与えた影響や、それらが今日どのように表れているのかを学ぶ。授業の形式は1番と似ている。生徒は毎回の授業の前にリーディングの感想をオンラインで提出することになっているので、それを授業内でピックアップしてそれから派生させて先生が授業を展開する。リーディングの量は普通。中間に筆記テスト、期末に6ページ程度のペーパーがある。

2. 授業を受けるにあたって心掛けていたこと、努力や工夫をしたことはありますか。

基本的に常にリーディングや定期的なエッセイ等の課題に追われていたので、特に工夫したことなどは思い浮かばない。履修した科目の欄に課題は多くないと書いてあっても、福井大学の授業で出る課題と比べると多い。が、それも慣れの問題だと思う。

3. 学習面で困ったことや、その解決方法について教えてください。

アメリカではエッセイはもちろん、レスポンスペーパーであっても論理性が求められるものが多い。福井大学ではそのようなことは感じなかったので苦労した。自分は一度だけしか利用しなかったのだが、ライティングセンターを利用するとアメリカで言うペーパーがどのようなものであるべきか理解できると思う。

4. 授業スタイルはどのようなものでしたか(講義聴講、ディスカッション等)。また、それに対してどのような印象を持ちましたか。

授業スタイルは履修した科目の中の1番に書いてある形式のものが多い。全員が積極的に発言するわけではなく、発言をしないような生徒も一定数いる。先生が発言しない人に発言を促すこともある。発言することは participation としてももちろん評価されるが、発言しない(できない)からといって成績が悪くなるわけではなさそう。課題も含め授業にしっかりと取り組めばAも普通にとれる。

5. お薦めの教員や授業などがあれば教えてください。

授業の数は山ほどあるので興味のあるものから選ぶことがベスト。単位交換のために興味のないものから選ぶとしんどくなることがあると思う。基本的には入門編(100-200番台)の授業は受講する生徒も多く、300-400の授業は少ない。自分の経験からして、大学院生向けの授業の方がクラスが小さく、また生徒も落ち着いていて居心地が良いかもしれない。

C. 居住環境や日常生活

1. 居住場所について教えてください。

形態	<input checked="" type="checkbox"/> 寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他()
部屋人数	(4)人部屋
寮・アパート名	University Center (Easton Avenue)
家賃に含まれた費用	<input checked="" type="checkbox"/> 光熱費 <input checked="" type="checkbox"/> 水道代 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット代 <input type="checkbox"/> 食費 <input type="checkbox"/> その他()
ネット環境	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
室内設備	<input checked="" type="checkbox"/> ベッド <input checked="" type="checkbox"/> 机 <input checked="" type="checkbox"/> 椅子 <input type="checkbox"/> クローゼット <input type="checkbox"/> 電話 <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> テレビ <input checked="" type="checkbox"/> シャワー・浴室 <input checked="" type="checkbox"/> キッチン <input checked="" type="checkbox"/> 冷暖房機器 <input type="checkbox"/> その他 ()
共用設備	(洗濯室、コンビニなど自由に記入してください。) 共用洗濯機、乾燥機、自販機(飲み物、お菓子)、共用学習室

2. 大学、住居周辺の施設について教えてください。

(銀行、現地のスーパー、日本食レストランやスーパーの有無など)

銀行、スーパー、日本食レストラン、コンビニ、本屋等。大きなデパートのようなものはないですが、基本的に何でもあります。

3. 現地銀行開設の有無や、現金入手方法、クレジットカードの利用頻度などについて教えてください。また、留学費用や現地での支出の管理はどのようにしていましたか。

デビットカードを日本で作って現地で使用していた。入金には日本からできる。現地で現金引き出しも可能。家族が残高を見ることも可能。アメリカは文字通りのクレジット社会。自動販売機にも使える。ほとんどはカードで決済していた。留学費用もデビットに入金してもらいそこから支払った。

4. 渡航直後に必要だったものや、あって便利だったものを教えてください。また留学期間を通し、日本から持参すべきだったもの、持参しなくてもよかったと思うものはありますか。

乾燥しているからか静電気がひどい。服装において化学繊維などは帯電しやすいので気にする人は気を付けたほうが良い。そのほかは特にはない。通販を使えばある程度日本の製品も手に入る。個人的には日本食が毎日恋しかった。

5. 留学にかかる必要経費について教えてください。(現地通貨＝USドル)(例:USドル)

内容	金額	内容	金額
渡航費	20万(円)	食費	35万(円)
保険代(日本+米)	30万(円)	家賃	75万(円)
予防接種・ビザ代	10万(円)	教科書代	5万(円)
交際費(外食等)	10万(円)	その他	25万(円)

合計: 210万(円)

6. 文化・習慣の違いなどで気をつけていたことやアドバイス(服装・マナーなど)があれば教えてください。

特に意識していたことはない。日本人の常識の範囲で行動すればそれで全く問題ないと思う。

D. 健康管理

1. 周辺の病院や学内での医療サービスについて教えてください。

近くに大きい病院がある。大学にも保健センターのようなところがあり、ワクチンもそこで打つことが出来る。ただあまり頻繁に利用したわけではないのでどんなサービスが受けられるのかはいまいちわかっていない。

2. 留学中に通院や入院はしましたか。その際にかかった医療費はいくらでしたか。

しなかった。医療費は高いそう。薬局に行くのが一般的らしい。

3. 渡航前に必要だった健康診断や予防接種、日本から持参した薬などはありますか。

骨髄炎やB形肝炎などのワクチン接種が渡航前に現地大学から要求された。(しかし、ほかの留学生の話を見ると渡航後でも良いらしいが本当のところはまだ不明)

【留学後: 成果や今後の進路について】

1. 交換留学の成果について教えてください。

留学前に設定した目標が達成できたか/留学先での学業や生活を通して学んだこと/留学前に期待した以上に達成できたこととその理由/留学中、特に努力したことや心掛けたこと/留学を終えて変わったことなど

交換留学を通して日本について学ぶようになった。結果として日本人としてのアイデンティティーが自分の中ではっきりしたものになり、日本の中においても外においても日本人としての誇

りを持つことが出来るようになったことが一番の成果。日本の文化などについて現地の大学で聞かれた際にもニュアンスではなく、しっかりと言語(英語)を通して説明ができるようになり、日本についての正しい知識を日本の外の人に発信できるようになる上に、日本についての理解を深めることは異文化との違いを明確にし異文化理解を深めることもつながると思う。

また政治学を専攻していたことから国内外のニュースにより敏感になった。各々のニュースを単純に知っているだけでなく、それらのニュースに対して自分の意見をしっかりと持つようになった。ニュースを集める際の情報源に関してもしっかりと情報の真偽を判断したうえで取り入れる癖がつき、特にテレビや新聞などの主流メディアは気を付けて見ている。

語学の面においてはスピーキングの能力は思ったよりも向上しなかったのだが、毎日のリーディングの課題のせいもあって英語を読む能力やボキャブラリーなどは格段に良くなったと思う。また毎日の課題などやるべきことをしっかりとやりきる力がついたと感じる。課題以外でも異文化の中で暮らすことによってストレスは多かったのだが、そのような経験をやりきったということは自信になっている。

2. 留学中に達成が出来なかったことやその理由、反省点があれば教えてください。

もともと内向的な性格のため、現地でも積極的に英語を使って会話をできなかったことが出来なかった。そのため英語能力を思ったより伸ばすことが出来なかった。

3. 今後の目標や挑戦したいこと、進路や就職活動について教えてください。

進路は特にまだ決まってない。これから留学がきっかけで学び始めた日本の精神文化についてこれからもっと学びたいと思っている。

4. あなたの留学先へ交換留学を考える福井大学生へのメッセージをお願いします。

ラトガス大学はパブリック・アイビーと呼ばれる州立大学でありながらアイビーリーグと同等の教育が受けられる大学の一つです。しかしアイビーリーグにみられるような堅苦しい雰囲気は校内には全くなく生徒がのびのびと過ごすことのできる環境がありますし、人種においてもラトガスは非常に多様化していて150を超える国の人がラトガスで学んでいることから、交換留学先としてはこれ以上ない素晴らしい大学だと思います。また福井市とラトガスがあるニューブランズウィック市は姉妹都市の関係にあり、その関係は約150年前に福井からラトガスへ留学した日下部太郎をきっかけとして始まっています。福井大学とラトガス大学の交換留学協定も日下部太郎の功績が大きくかかわっていますし、ラトガスに留学する際にはその歴史についてもぜひ学んでほしいと思っています(国際地域学部の細谷先生は日下部グリフィス基金の理事長をされています)。ラトガスでの留學生活は課題等に追われ大変なものになるかもしれませんが、その経験は絶対にこれからの人生において大きな自信になるので、迷っている人はぜひラトガスに留学してほしいと思います。